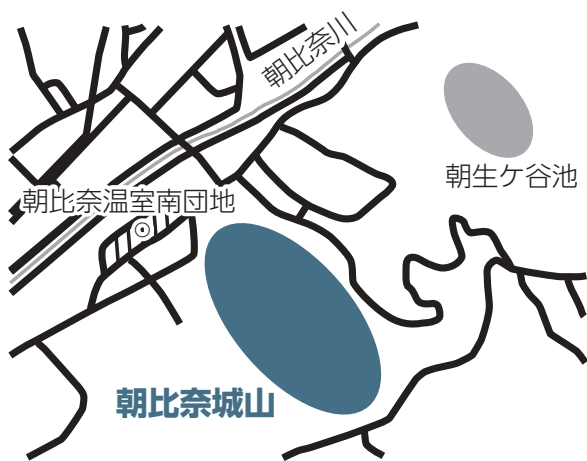




▲横舟西之谷遺跡出土銭

市内朝比奈地区



埋蔵文化財包蔵地

朝比奈城山

History

キラリを再発見

高天神衆の 曾根孫太夫長一の詰の城

朝比奈城山は、下朝比奈字杉山に所在しています。牧之原台地が下朝比奈字南谷に向かって張り出した尾根先端に築かれた平山城で、本曲輪の標高は85m、地元では単に城山と呼ばれています。

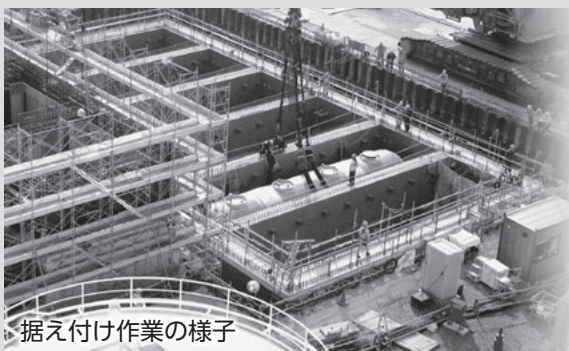
朝比奈城山には、本曲輪を中心に4カ所の小さな曲輪があり、尾根を切断する堀切も4カ所確認できます。北側の麓部分には土塁で囲まれた屋敷跡があり、高天神衆の一人曾根孫太夫長一の屋敷と伝えられている曾根屋敷跡が所在していることから、朝比奈の城山はその詰の城として構築されたものと考えられます。

曾根孫太夫長一は、第一次・第二次の高天神城の戦いの際、本丸の守備についていた寄子と呼ばれる部将です。普段は朝比奈の自分の屋敷に住み、屋敷周辺の田畑を経営し、こうした戦いの際に、寄親である高天神城主の小笠原氏助のもとに駆け付けました。

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129



軽油タンク陸上輸送の様子



据え付け作業の様子

浜岡原子力発電所では、非常用ディーゼル発電機の軽油タンクを外部火災や竜巻などの自然現象から防護し、原子炉施設の安全性が損なわれることがないように、地下化する工事を実施しています。タンクの軽油は、原子炉施設の外部電源が喪失した際に自動起動する非常用ディーゼル

発電機の燃料として利用されます。新しい軽油タンク6基は、10月から11月にかけて浜岡原子力発電所へ搬入され、地下に作られたタンク室へ順次据え付けられました。軽油タンク6基分の容量は720キログラムで、これは非常用ディーゼル発電機3台の1週間分の燃料に相当します。

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所4号機
軽油タンクを地下化